

**平成29年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について**

保護者の皆様へ

白河市立東中学校長

平成29年4月18日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は3年生で、国語と数学の2教科の実施となりました。

国語と数学の2教科で、主に知識に関する「A問題」と、主に知識を活用する力に関する「B問題」を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語A	77.4%	○				
国語B	72.2%	○				
数学A	64.6%					○
数学B	48.1%		○			

【国語A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	75.4 %	○				
書くこと	85.7 %	○				
読むこと	73.8 %	○				
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.2 %	○				

【考察】

- 「話すこと・聞くこと」の領域では、事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す力はある程度身につけています。今後の授業等では、話すための材料を交流を通して集め、相手や目的に応じて資料を効果的に活用したり、分かりやすい語句を選択したりするなどの言語活動を、さらに反復して実践していきます。
- 「書くこと」の領域では、書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書くことができます。さらに、伝えたい事柄が明確になるよう文章の構成を工夫して分かりやすく書く活動を、繰り返し実践していきます。
- 「読むこと」の領域では、文章の表現の仕方について自分の考えをもつことができます。場面の展開や登場人物の描写に注意して、さらに丁寧に読み、文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広げられるよう継続して実践していきます。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、少人数による協同的な語句・語彙調べなどの取組により、文脈に即して語句の意味を理解することはある程度身につけているといえます。さらに、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深められるよう繰り返し指導していきます。

【国語B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	72.4 %	○				
書くこと	60.8 %	○				
読むこと	72.1 %				○	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	41.4 %					○

【考察】

- 「話すこと・聞くこと」の領域では、聞き手の反応を踏まえながら相手に分かりやすく伝わるように工夫して話したり、話の論理的な構成や展開などに注意して聞いたりすることに課題があります。明確な意図をもった聞き方や、聞き手からの意見に基づいて内容を修正するなどの言語活動を充実させて指導していきます。
- 「書くこと」の領域では、状況や表現に即して感じたことや考えたことを書くことはある程度身につけているといえます。読み手の反応を想起しながら事実や事柄が分かりやすく伝わるように工夫して書いたり、必要な情報を見通しをもって集め、

材料を整理して文章を構成したりするなどの活動を通し、伝えたい事柄の根拠を明確にして文章を構成し、書いて表現するための技能をしっかりと身につけられるよう、今後も「書く活動」を充実させていきます。

- 「読むこと」の領域では、情景や心情の描写に着目して内容を理解することや、目的に応じて必要な情報を読み取る力は、ある程度身につけています。登場人物の言動の意味をじっくりと考え、それを根拠に自分の考えを構成したり、必要な情報を比較・検討したりして自分の考えの形成に役立てたりするなどの言語活動をさらに意図的に設定し、指導していきます。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、表現の仕方に着目して正しいものを選択したり、自分の考えに結びつけたりすることができます。さらに、文脈に即した内容理解や、多様な語句について理解を深められるよう、少人数による協同的な学習を推進していきます。

【数学A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	70.4%					○
図形	66.0%				○	
関数	57.4%					○
資料の活用	57.6%					○

【考察】

- 「数と式」の領域では、基本的な知識や計算技能がしっかり身につけています。特に方程式では、式の意味や解き方などが理解できていて、全国平均を大きく上回りました。今後も復習や問題練習を行い、さらに習熟を図っていきます。
- 「図形」の領域では、直線や平面の位置関係についての理解が不十分でした。作図や、模型を使用するなどの操作的な活動を通して、図形の移動や位置関係などを理解できる場を授業の中で設定し、定着を図っていきます。
- 「関数」の領域では、式・表・グラフの意味や関数関係を正しく理解し、解くことができました。授業の中で1・2年の関数について復習し、その考え方を利用していろいろな問題を解くことができるようにしていきます。
- 「資料の活用」の領域では、資料の処理についてはよくできていましたが、確率を求める問題の正答率が少し低めでした。週末課題や授業の中で問題練習を行い、復習し定着を図っていきます。

【数学B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	46.3%	○				
図形	47.1%		○			
関数	50.8%		○			
資料の活用	49.1%		○			

【考 察】

- 「数と式」の領域では、答えを求める手順を考え、説明することに課題があります。授業で、なぜそのように考えたかを記述したり、発表したりする場面を設定し、自信をもって取り組むことができるようにしていきます。
- 「図形」の領域では、図形の性質を用いて筋道を立てて考え、考え方や証明を記述することに課題があります。証明の手順や記述のしかたを再確認し、根拠を明らかにして記述する練習を随時行うなど、個別に支援していきます。
- 「関数」の領域では、関数を用いて問題を解決する方法が問われ、考え方は合っているにもかかわらず、記述が不十分な解答が多く見られました。生活の中で関数を利用する場面は多いので、具体例を用いながら、正しく書くことに慣れるようにしていきます。
- 「資料の活用」の領域では、資料やグラフを基に判断・説明する問題において、正答率が全国平均より低くなっています。授業の中で、必要な情報を選択し、根拠を明らかにして説明できるような課題を設定し、思考力・判断力を深められるような活動を積極的に取り入れていきます。